

2 2回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
	評価項目	(1回目評価を踏まえた) 年度末までの取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標
確かな学力・豊かな心・健やかな体	学びに向かう力	引き続き、子どもが安定し、主体的に遊べるような保育を構築する。	アンケート項目 「子どもは幼稚園で遊ぶことが好きだ」
	自己調整力・自己抑制力	友達関係を広げ、深めながら協働して遊ぶ楽しさを感じられるよう援助する。	アンケート項目 「子どもは友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいる」
	心豊かな感情体験・情感	親子読書の表彰を受け、続けて絵本に興味関心が持てるよう保護者発信も推進する。	アンケート項目 「子どもは絵本を読むことや絵本貸出を楽しみにしている」
	人とかかわり	保育計画の中に積極的にかかわる機会を設け、保護者への発信や報告を続ける。	アンケート項目 「1年間を通じて幼稚園兄弟とかかわることを楽しんでいる」
	体力向上	園外保育や日々の遊びの中での体づくりにつながるよう保育計画し、実践する。	アンケート項目 「1年間を通じて体を使って遊ぶことを楽しんでいたか」
園独自の	基本的生活習慣の確立	保護者と連携しながら個々に手立てをしながら基本的生活習慣を確立する。保護者懇談会を活用。	アンケート項目 「幼稚園の持ち物準備や着替えなど自分のことを自分でしようとしているか」
	他校種との連携	保護者発信を丁寧にする。	アンケート項目 「幼稚園は小・中学校との連携を大切に、子どもの憧れや期待の気持ちにつながっているか」
	地域との連携	幼稚園と地域のつながりを保護者が理解し、地域と家庭がつながるように発信する。	アンケート項目 「幼稚園は地域とのつながりを大事にし、地域の方の保育参加により子どもたちが心豊かに育っている」
	教育方針の発信	ホームページの更新を進めるとともにわかりやすい内容の充実を図る。	アンケート項目 「保育の様子や子どもの育ちや学びが伝わってきた(降園時の話・便り・ホームページ等)」



・アンケート実施結果、 その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成29年3月7日
	評価者・組織	教職員
アンケート結果・ 各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
A評価が94%, B評価が6%	おおむねA評価なので、子どもたちは幼稚園生活を楽しんでいることがわかる。	遊びの充実や個々がめあてをもって遊ぶことなど今後も保育環境、援助の向上に努める。
A評価が94%, B評価が6%	クラスの友達とのかかわりが深まっていることの表れである。	好きな遊びや協働する遊びなど一人一人の良さを認めながらかかわる楽しさを味わえるよう今後も保育を充実させていきたい。
A評価は59%, B評価は41%	家庭により評価基準が様々である結果だろう。記名式でのアンケートなのでそれが明らかにわかる。	昨年度に引き続き、年間100冊読破できているので、今後も幼稚園の取組を継続していきたい。
A評価は76%, B評価は24%	5歳児は保護者がかかわる様子がわからないことから責任を果たしているかについて懸念されている。	年間を通して幼稚園兄弟とのかかわる機会を意図的につくるなど今後も大事にしていきたい。
A評価は88%, B評価は12%	おおむねA評価。運動会後も毎朝体操やリレー、マラソンを続けた成果であろう。	体を動かして遊ぶ経験は健康な体や心を育成するので、今後も取り組んでいきたい。
A評価は26%, B評価は65%, C評価は9%	この項目のみ、C評価がある。個人差はあるが、「最後までやりきる」ことの評価基準が厳しいかもしれない。しかし、今後の課題にもつながる。	生活習慣の確立は大切なもので、保護者と連携しながら個々に支援をしていく必要を感じる。
A評価は79%, B評価は21%,	おおむねA評価である。4歳児での評価が少し下がったが、前期は新鮮に受け止めたためだと思う。	小学校や中学校との交流や連携の周知や意義を感じられるように今後も発信していきたい。
A評価は94%, B評価は6%	今年度、保育参画の見直しをし、保育充実に向けて取り組んだ成果と思われる。	次年度は今年度の研究や取組の成果と課題を活かしていきたい。
A評価は85%, B評価は15%,	HPや手紙、教師の話からの発信の効果が表れている。	今後も発信に務める事で、教育の理解や協力につながることが期待できる。



学校関係者評価	
評価日	平成29年3月10日
評価者 (いずれかに○)	○学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・ 学校評議員による 改善に向けた支援策
前期に続き、良い結果でよかった。	先生たちのかかわりにより、楽しい園生活となっている。今後も期待している。
子どもたちが活発に会話している様子が見られる。	コミュニケーション力は大事なので、今後も人とかかわる力を育ててほしい。
預かり保育でも紙芝居や絵本を熱心に聞いてくれている。	今後も預かり保育での読み聞かせを頑張ってやっていきたい。
少子化や核家族化が進む中、兄弟の取組はよいことである。	やはりペアを組むことは相手への思いも深まり、良い取組だと思う。今後も期待する。
預かり保育でのドッジボールも回数を重ねるとうまく遊べるようになる。やはり経験が大事だと思う。	体力向上のために幼児期からの運動遊びを大事にしてほしい。
生活面では1年生の交通事故増加が懸念される。	命を守るために幼児期からの安全意識や交通ルールの理解など取り組むべきである。また、危険箇所への気づきについて自ら注意して行動できるように指導が望まれる。
深草の学区での交流は嬉しい事である。小学校への進学の安心感につながる。	今後も連携を続けてほしい。
学校運営協議会を「なかよし会」と名付けたことや年間を通じて幼稚園兄弟を核になかよし会とペアになってかかわることなどにより親しみが深まった。保護者も学年があがることになかよし会への親しみが増している。	今年度は研究報告会に参加して自分たちの意義を実感できた。今後も子どもたちとのかかわりを継続、推進していきたい。
地域への手紙での発信も手伝っている。	地域の者がわかりやすく、読みやすいものとなるよう今後も工夫を続けてほしい。